

事業概要票

事例NO. 67（平成25年度発表）

事例キーワード

・廃棄物となる樹皮等を有効活用した緑化工法

事業名	流域育成林整備事業（太郎ヶ台線）	
事業担当機関	由利地域振興局 農林部 森づくり推進課 森林整備第二班	
事業期間	平成13年～平成26年（予定）	
実施場所	にかほ市伊勢居地字一ノ坂地内	
事業概要	全体事業費	1,342百万円（予定）
	工事概要	L=11,500m W=4.0m
	事業の目的	市道や既設林道を有機的に結び、人工林の適正な維持管理に加えて、公益的機能の高度発揮をより重視した森林施業の推進、森林の利用等に資する骨格林道として開設する。
環境配慮の内容	<p>近年、木材需要の高まりから、間伐を主体とした素材生産が増加する一方で、製材過程で発生する樹皮や端材の有効活用が課題となっている。</p> <p>このため、当該林道では、次の内容について試験施工を実施する取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物として処理される樹皮等を破碎し、林道開設における法面緑化の厚層基材吹付として利用することにより、山林へ有効的に還元する。 ・樹皮利用に際し、自然環境への影響が少ない発酵促進材・助材（小麦主成分）と混合することにより、畜糞や汚泥などを混入せずに土壌への転換を促進する。 	
施工後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・従来より「廃棄物化」が懸念されていた樹皮等を「資源」として活用できたことにより、森林資源のリサイクルに果たす役割が大きい。 ・自然環境への影響が少ない材料で土壌への転換を促進していることにより、農業用水や生活雑用水として供給されている水源環境へ配慮している。 	

【樹皮の有効活用のイメージ】

施工後



法面緑化（基盤材として活用）



林道へ



山土場（林道脇）



森林組合へ（製材工場）



加工（破碎）

